

# ブロック塀の診断カルテ

## A. 基本性能の診断〔基本性能値〕

診断項目	基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10
	10以上、20年未満	8 ( )
	20年以上	5
高さの増積み	なし	10
	あり	0 ( )
使用状況	塀単独	10
	土留め・外壁等を兼ねる	0 ( )
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10
	塀の下に擁壁あり	5 ( )
塀の高さ	1.2m以下	15
	1.2mを越え、2.2m以下	10 ( )
	2.2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	10
	12cm	8 ( )
	10cm	5
透かしブロック	なし	10
	あり	5 ( )
鉄筋	あり	10
	確認不能	0 ( )
控え壁・控え柱	あり	10
	なし	5 ( )
かさ木	あり	10
	なし	5 ( )
基本性能値( ~ までの評価点の合計 ) [		A

## B. 壁体の外観診断〔外観係数〕

診断項目	基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	1.0
	あり	0.7 ( )
ひび割れ	なし	1.0
	あり	0.7 ( )
損傷	なし	1.0
	あり	0.7 ( )
著しい汚れ	なし	1.0
	あり	0.7 ( )
外観係数( ~ の最小値 ) [		B

## C. 壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診断項目	基準係数	耐力係数
ぐらつき*1	動かない	1.0
	わずかに動く	0.8 [
	大きく動く	0.5

\*1 診断する場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

## D. 保全状況の診断〔保全係数〕

診断項目	基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5 [
	なし	1.0

## 診断結果の判定

1. 総合評点 (Q) を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline A \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline B \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline C \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline D \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点(Q)} \\ \hline \\ \hline \end{array}$$

2. 総合評点 (Q) から、診断結果を判定しましょう。



安全性の判定と今後の対応			
チェック	総合評点	判定	今後の対応
	Q ≥ 70	安全である	3~5年後にまた診断して下さい。
	55 ≤ Q < 70	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。
	40 ≤ Q < 55	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を講じて下さい。
	Q < 40	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。

診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。